



Manchester (Model 8360) Wood Stove



OWNER'S MANUAL

マンチェスター (モデル 8360)
オーナーズ・マニュアル
取扱説明書

お使いになる前に必ずお読みください。
また、必要なときに参照できるよう大切に保管してください。



ハースストーン日本総輸入元

長野総商株式会社

〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1625-83

Tel: 0267-32-2353 / Fax: 0267-32-2690

目次

はじめに	3
ご使用上の注意	3
安全のために	3
定期点検チェックリスト	4
緊急時には	4
ストーブの操作について	6
コントロールと機能	6
Safety Label セイフティ・ラベル	7
薪について	7
慣らし焚き	8
毎日のご使用について	9
着火方法	9
燃焼温度	9
焚きすぎの注意	10
灰の処理方法	10
メンテナンス	11
クレオソートの形成と除去について	11
ガasket	11
ガラス	11
鋳鉄のお手入れ方法	12
トラブルシューティング	13
パーツリスト	15

はじめに

マンチェスター（モデル 8360）は、米国 EPA（米環境保護局）認定クリーンバーン方式の薪ストーブです。触媒式ストーブに必要なメンテナンスの手間やコストを抑えながら、クリーンで心地よい暖かさを提供します。クリーンバーン方式という先端技術と、鋳物の美しさを融合したハースストーン社のストーブをお楽しみください。

この取扱説明書は、ストーブの安全、慣らし焚き、操作方法、メンテナンスについて理解していただくためのものです。いつでも参照できるよう、お手元に保管してお持ちください。

ご使用上の注意

- ストーブや煙突の近くに衣類、家具、カーテン、紙などの燃えやすいものがないことを確認してください。
- ガソリン、灯油などの可燃性の液体をストーブの側に置かないでください。
- 必要に応じてハースゲート等を設置し、小さなお子様がストーブや煙突に近づかないようご注意ください。
- ストーブ使用中は高温になりますので、火傷にご注意ください。
- 通常使用を始める前に、最低3回（3日）は必ず慣らし焚き（8ページ）を行ってください。
- よく乾燥させた薪を燃やしてください。
- 熱くなったストーブに薪を補充する際は十分注意し、補充時以外はドアを閉めておいてください。
- 灰受け皿は常に取り付け、アッシュドアはしっかりと閉めてください。

注意：

慣らし焚きの最中で、まれにストーブの底面より黒い液体が少量滴ることがあります。これは低温燃焼で行うために生じるもので、慣らし焚きが完了すればおさまります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前にストーブの下や足元に不燃性のものを敷くなどして炉台を保護してください。

安全のために

- ストーブを決して改造しないでください。
- キルン乾燥材、塗装木材、処理済木材、溶剤、ゴミ、合板、カラー紙、光沢紙、ボール紙、石炭、流木は燃やさないでください。特に、このストーブで石炭は決して燃やさないでください。
- 着火時や燃焼を促進させるために、ガソリン、ランタン用燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料は決して使用しないでください。これらの燃料は酸素を使い果たし一酸化炭素を発生させる恐れがあります。ストーブの側には決して置かないようご注意ください。
- アッシュドアの損傷時や、アッシュドアを開けた状態で、ストーブを使用しないでください。
- フロントガラスに薪を立て掛けたり、ガラスに触れた状態で使用しないでください。
- ドアをボタンと強く閉めたり、ドアで薪を押し込むことはしないでください。
- 燃やしすぎないようにご注意ください。（焚きすぎの注意：10ページ）
- 衣類やキャンドルなどを熱くなったストーブに載せないでください。
- 他のストーブに接続された煙突に接続しないでください。

その他

- 家具、カーテン、衣類などの移動可能な可燃物は、ストーブから最低1メートル離してください。
- 薪ストーブから離れた場所に煙探知器を設置することをお勧めします。
- 万一の場合に備え、消火器は手の届く場所に用意しておきましょう。
- 灰は適切に処理してください。（灰の処理方法：10ページ）
- お子様やペットがストーブに近づかないようご注意ください。火傷の恐れがあります。
- 必要に応じて煙突掃除を行ってください。

定期点検チェックリスト

毎週

- ✓ 炉内と灰受け皿の灰をチェックし、必要に応じて灰を処理してください。

隔月

- ✓ 使用頻度に応じ（11ページ参照）、煙突内のクレオソートをチェックしてください。
- ✓ “ドル紙幣テスト”と言われる方法で、ドアガasketをチェックしてください。ストーブが冷めた状態のときに紙をはさんでドアを閉め、そのまま抵抗なく紙を抜き取ることができるのであれば、ガasketの交換時期です。

シーズンの終わりに

- ✓ 煙突を点検し、必要に応じて煙突掃除を行ってください。
- ✓ 炉内の掃除を行ってください。
- ✓ ドアガasketをチェックし、磨耗、擦り切れ、亀裂や極度に硬くなっている場合は交換してください。

緊急時には

万が一、煙道火災が発生した場合、火災が激しいときは、直ちにその場を離れ、消防に連絡をしてください。火災が軽度の場合は以下の手順で対応してください。

1. プライマリーエアーコントロールを閉めてください。
2. もしあれば、ストーブパイプのダンパーを閉めます。
3. フロントドア、サイドドア、アッシュドアをしっかりと閉めた状態にします。

煙道火災発生時の注意

ストーブ本体、煙突に決して水をかけないでください。煙道火災は大変高温になりますので、瞬間的に水蒸気を発生させ、身体的危害を引き起こす原因になります。

煙道火災がおさまった後もプライマリーエアーコントロールは閉めたままにし、ストーブ内の炎が完全に燃え尽きるまで待ちます。ストーブや煙突の点検を行い、損傷部分の交換または修理が終わるまでは、決してストーブを使用しないでください。

製品仕様

最大出力	19,600 kcal/hr
暖房面積	200 m ² (60 坪)
最大薪長さ	56 cm / 61 cm (サイドドアより)
ストーブ寸法	h816 x w768 x d508 mm
煙突径 / 煙突方向	6 インチ / 上・背面
重さ	234 kg

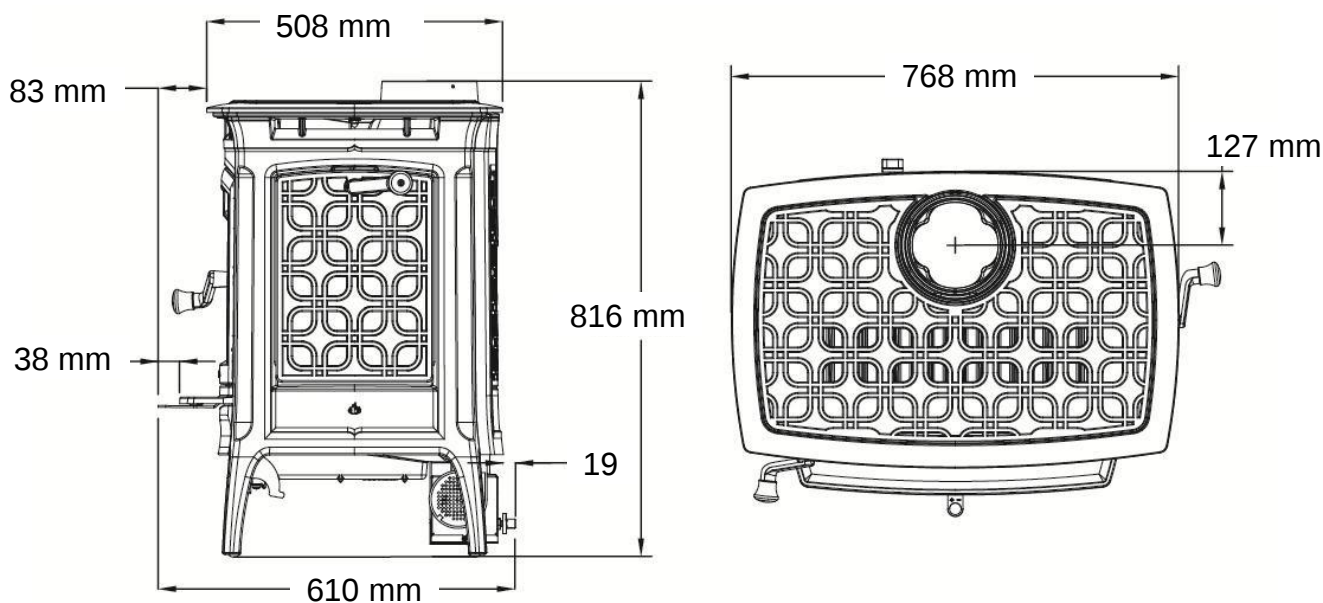
サーモセラミック製バッフルについて

ハースストーン社のストーブにはサーモセラミック製バッフルを使用しています。(炉内上部のバーナーチューブ真上にある白いシート状のものです)

バーナーチューブの真上に使用することで二次燃焼が行われる部分を高温に保ち、燃焼効率を上げ、結果的に煙の排出量の削減に役立ちます。サーモセラミック製バッフルは、軽量で耐久性に優れ、腐食や錆びはありませんが、崩れやすいため、取扱いにはご注意ください。

薪の補充時や掃除の際には、サーモセラミック製バッフルを傷つけないよう特にご注意ください。

薪や煙突掃除用ブラシが当たると損傷することがあります。もし穴が開いたり裂けてしまったまま使用しますと、ストーブの機能に影響を及ぼしますので、交換してください。



ストーブの操作について

使用する薪、操作方法はそれぞれ異なりますので、ここでは基本的な原理をご説明します。安全で、ストーブの潜在力が最大限に発揮される燃焼の実現には、使用する薪の状態や操作方法が大きく影響を与えます。

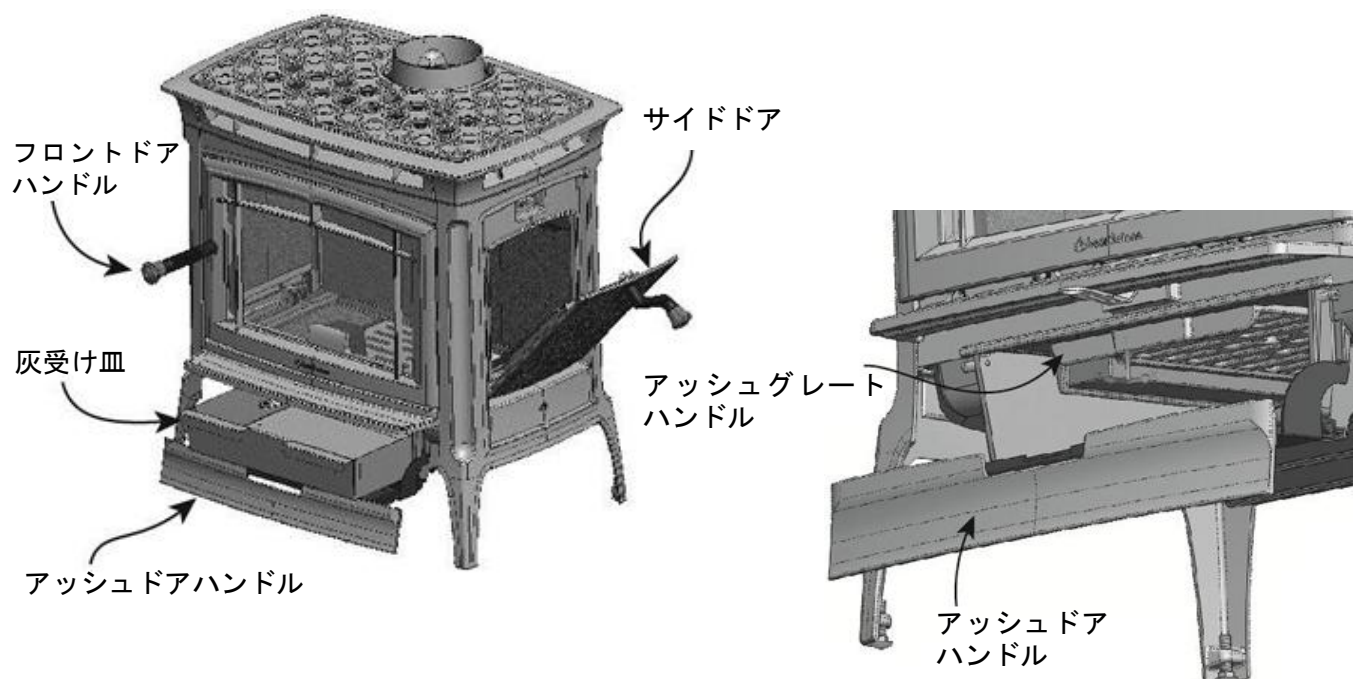
ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。コントロール方法、機能、薪の選び方などをご紹介します。

◇ 使用中はストーブが大変熱くなりますので、お子様が近づかないようご注意ください。また、ストーブの側に可燃物を置かないでください。

コントロールと機能

ストーブに火を入れる前に、ストーブの各機能、コントロールの位置、それらの使い方について、以下の図を参照しながら、慣れ親しみましょう。

安全のため、これらの機能を決して改造しないでください。またストーブ燃焼中の操作には、革手袋のご使用をお勧めします。



フロントドアハンドル

開くとき：ドアハンドルを上方向へ回します。

閉めるとき：ドアをしっかりと閉じ、ハンドルを回して閉じます。ドアを引き、閉じていることを確認します。

灰受け皿（ストーブ燃焼中は熱くなります。ストーブが冷えた状態のときにご使用ください）

灰受け皿を取り出すには、アッシュドアを開けます。アッシュドアは、アッシュドアハンドルを両手で持ち、自分の方へ持ち上げたら、下方向へぶら下げます。アッシュグレートハンドルを引き出し、グレートを開かして灰を灰受け皿に落とし、灰受け皿を引き出して灰を処理してください。灰の処理はストーブが冷めた状態で行ってください。灰を扱うときには細心の注意を払ってください。*必ずしもこの方法で灰を処理する必要はありません。フロントドアからシャベルで灰を取り出しても構いません。取り出した灰は、金属製のフタ付き容器へ移してフタを閉め、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。（10ページ参照）

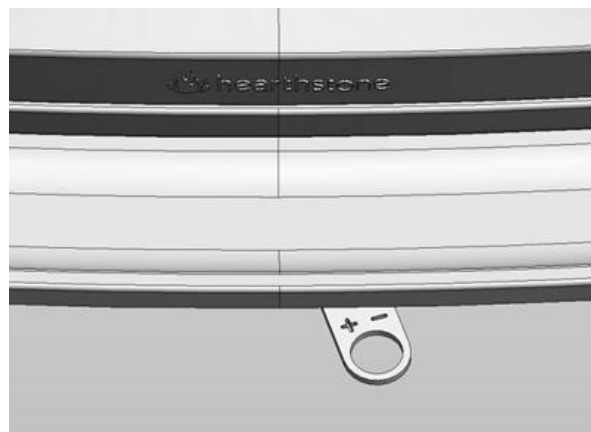
注意： 灰受け皿が納まっていない時や、アッシュドアが開いた状態では、決してストーブを使用しないでください。焚きすぎの状態となり、ストーブの損傷の原因になります。

プライマリーエアーコントロール（空気調整レバー）

ストーブ前面、アッシュリップの下中央にコントロールレバーがあります。これでストーブ炉内に入る空気の量を調節します。

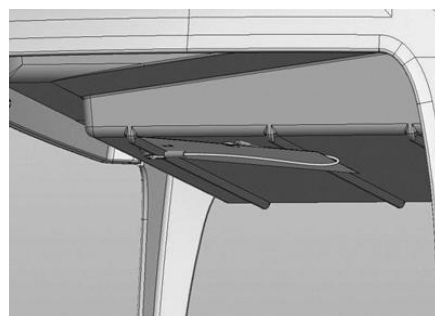
空気が多く入れば燃焼が加速し、高温燃焼になります。反対に空気量が少ないときはゆっくり燃焼し、低温燃焼となります。

空気を多く取り入れるには左へ動かし、空気量をしばらく抑えたいときは右へ動かします。（一番右へ動かしても、完全に空気の取り入れを遮断するわけではありません）



Safety Label セイフティ・ラベル

ストーブ底面とケーブルで取り付けられているセイフティ・ラベルは、右図のようにストーブ底面に収納できます。



薪について

マンチェスターは薪専用のストーブです。

化学薬品、またはガソリン、ナフサ、灯油、木炭用ライターオイル、エンジンオイルなどの可燃性の液体を着火剤として使用しないでください。木炭、ペレット、石炭などの薪以外の燃料を使用しないでください。また、ゴミを燃やさないでください。

熱量、燃焼時間、ストーブの性能には、薪の質が影響します。軟木（針葉樹）はすぐに火力が上がりますが火持ちが悪く、一方で堅木（広葉樹）は火持ちがよくて炭が多くでき、暖める力が大きいため、理想的な薪であると考えられます。

薪の水分含有量も、ストーブの性能に大きく関わります。切ったばかりの生木には水分が多く含まれ、なかなか燃えません。薪ストーブで使用するには、事前によく乾燥させることが重要です。割った薪は日当たりがよく風通しのよい場所に積み、少なくとも二年間乾燥させます。生木 1 ポンド（約 0.45kg）あたりの熱量が 2,000 BTU（約 500 kcal）に対し、乾燥した薪 1 ポンド（約 0.45kg）あたりの熱量は 7,000 BTU（約 1,760 kcal）以上になります。

薪は直接地面に触れないよう木製のパレットやブロックの上に積み、また雨に濡れないよう一番上だけ覆いをします。側面を防水シートなどで覆ってしまうと水分が逃げず、乾燥しません。薪を積むときのポイントは、“ネズミは通れるが、ネズミを追いかけるネコは通り抜けられないぐらいの隙間”を開けることと、アメリカ、バーモント州では古くから言われています。

慣らし焚き

本格的なご使用の前に、ゆっくりとストーブを慣らししていきます。**新しいストーブを一気に高温で使用すると、鋳鉄部分やその他の部品に割れや破損が生じる恐れがあります。**慣らし焚きにより、組み合わされた各部品も馴染んでいきます。焚き始めにはストーブや煙突表面から煙や臭いが出ますが、これは表面の塗料が焼けたもので、通常 10～20 分でおさまります。必要であれば窓を開けて換気をしてください。

注意：

慣らし焚きの最中で、まれにストーブの底面より黒い液体が少量滴ることがあります。これは低温燃焼で行うために生じるもので、慣らし焚きが完了すればおさまります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前にストーブの下や足元に不燃性のものを敷くなどして炉台を保護してください。

着火時や燃焼を促進させるために、ガソリン、ランタン用燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料は決して使用しないでください。ストーブの側には決して置かないようご注意ください。

破損する恐れがありますので、以下にご注意ください。

- ストーブの中に薪を投げ入れないでください。
- フロントドアを使って薪を押し込まないでください。
- 表面の凍った薪を燃焼中のストーブの中に入れてください。熱衝撃により破損する恐れがあります。
- 炉内には既製品のグレートやロストルを置かず、炉床の上で直接薪を燃やしてください。

慣らし焚きの手順

アッシュグレート、灰受け皿がきちんと装備されていることを確認してから開始してください。

- ① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙 5，6 本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
- ② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（空気調節レバーを左へ動かします）
- ③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
- ④ フロントドアを閉め、焚きつけを燃焼させます。
- ⑤ 焚きつけがよく燃えてきたらフロントドアを開け、薪を足します。細めの薪を 2，3 本足します。フロントガラスのエアーウォッシュシステムが機能するよう、薪はフロントガラスに近づけすぎないようにします。ストーブの使用中はフロントドア、サイドドア、アッシュドアが閉まっていることを確認してください。グレートも閉じた状態であることを確認してください。
- ⑥ 低温での燃焼を維持するようストーブから目を離さないようにしてください。最初の燃焼ではストーブを暖めるのが目的なので、触れないほど温度を上げないように注意してください。多くても、細めの薪を 2，3 本足す程度で安全な慣らし焚きに必要な温度に達するはずです。
- ⑦ ストーブが暖まったらプライマリーエアーコントロールを調節しながら、薪が燃え尽きるまで燃やします。
- ⑧ ストーブを室温になるまで冷まします。

慣らし焚きは最低 3 回（または 3 日）、上記手順で必ず行ってください。最初のご使用前だけでなく、毎年のご使用前には同じ手順で一回慣らし焚きを行うことをお勧めします。毎年これ続けることでストーブは整えられ、きちんと応えてくれます。

注意：慣らし焚きでは煙突内の温度が低いいためクレオソートが付着しやすく、またフロントガラスに汚れが付きやすくなります。慣らし焚き終了後はストーブパイプや煙突を点検し、必要であれば掃除を行ってください。

毎日のご使用について

長期間使用していなかったときやシーズンの初めには、通常使用を開始する前に最低一回は慣らし焚きを行ってください。急激な熱によってかかるストレスを軽減する働きがあります。また、ご使用前に、グレートとアッシュドアが閉まっていることを確認してください。開けたまま使用を続けると焚きすぎにより、ストーブの損傷を招きます。焚きすぎによる損傷は保証対象外です。

着火方法

- ① フロントドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙5, 6本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径 15 ミリ程度）を 10 本ほど交差させて置きます。
- ② プライマリーエアーコントロールをいっぱいに開きます。（空気調節レバーを左へ動かします）
- ③ 着火剤（新聞紙）に点火します。焚きつけに火が着いて上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアをかすかに開けた状態にします。
- ④ フロントドアを閉めます。
- ⑤ 焚きつけが燃えてきたらフロントドアを開け、薪を追加します。最初は細めの薪を足し燃焼を促進させます。フロントガラスのエアーウォッシュシステムが機能するように、薪はフロントガラスから離してください。また、フロントドア、サイドドア、アッシュドアは閉めておきます。
- ⑥ よく燃えてきたら、プライマリーエアーコントロールで燃焼温度を調節してください。左へ動かすと空気が入ってよく燃え、右へ動かすと空気量が少なくなります。

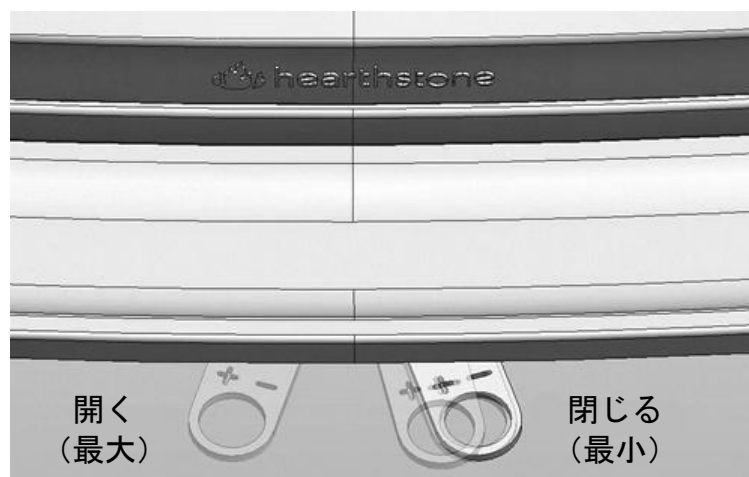
ポイント: 薪の補充時にフロントドア、サイドドアを開けるときは、最初に少しだけ開けてから間隔を置き、それからゆっくりとドアを開きます。こうすることで炉内の煙がなくなり、部屋への逆流を防ぎます。

燃焼温度

高温燃焼: 空気調節レバーを一番左へ動かすと、ストーブ内へ入る空気量が最大になります。十分に熾きができた状態、または薪がよく燃えている状態で薪を追加したときは、空気調整レバーを一番左へ動かします。高温燃焼は一日に 1, 2 回（30～45 分）としてください。高温燃焼によりストーブパイプと煙突が暖まり、クレオソートの付着を抑えます。

中温燃焼: 空気調節レバーをちょうど中間の位置まで動かします。この燃焼温度が標準セッティングで、ストーブの周りに人がいない場合には、この状態が望ましいとされています。

低温燃焼: 空気調節レバーを一番右まで動かすと、ストーブ内へ入る空気量が最小になります。長時間の低温燃焼はクレオソートの付着を促すため、お勧めできません。長時間、低温燃焼でストーブを使用する場合には、ストーブパイプや煙突をまめに点検してください。



焚きすぎの注意

焚きすぎとは、燃焼温度が適正温度より高い状態のことを言います。ストーブの損傷を防ぐため、焚きすぎには十分注意が必要です。焚きすぎの状態では、燃焼時間が短くなったり、ストーブまたはストーブパイプからごうごうとうなるような音が聞こえたり、ストーブパイプに変色が見られます。

焚きすぎ防止のため、以下にご注意ください。

ドラフト：引きが強すぎる場合は販売店にご相談ください。

使用燃料：石炭、キルン乾燥木材など、自然乾燥させた薪以外は燃やさないでください。

操作方法：フロントドア、サイドドア、アッシュドアを開けたまま燃やさないでください。

メンテナンス：ガスケットをチェックし、剥がれたり擦り切れたりしたものは交換してください。

焚きすぎ予防のためストーブの表面温度は定期的にチェックしてください。焚きすぎが疑われる場合には販売店にご相談ください。**焚きすぎによる損傷は保証対象になりません。**焚きすぎによる損傷には、内部パーツのゆがみや焼損、外部パーツの変色やゆがみ、エナメル部分の損傷が含まれます。

灰の処理方法

- 灰を処理する際は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。灰受け皿がまだ温かい場合には、革手袋をご使用ください。灰の扱いには十分ご注意ください。
- 常に数センチほどの灰は炉床にあったほうが熾きの持ちがよくなりますので、完全に取り除く必要はありませんが、外へこぼれ落ちたり、ドアの開閉に影響を及ぼすほど灰をためすぎないようにご注意ください。

アッシュドアを開け、アッシュグレートハンドルを手前に引くとグレートが動き、下へ灰が落ちます。手前に引いたり押したりを繰り返して灰をふるい落としたり、灰受け皿をゆっくりと引き出します。

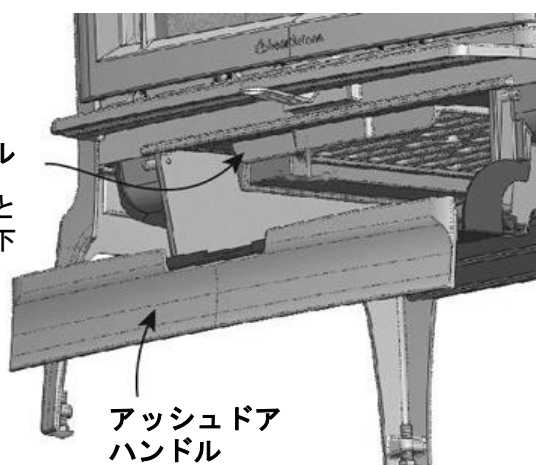
灰は金属製のフタ付き容器へ移します。容器の中へ灰以外のものを入れないでください。灰を容器へ移したらフタを閉め、灰を冷まします。容器が熱くなることがありますので、灰を入れた容器は可燃性の床の上には置かないでください。灰の中に残った炭は数日間熱を保つ場合があります。灰が完全に冷えるまでは必ずフタをした状態で、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。木製やプラスチック製の容器、紙袋やビニール袋には決して灰を入れないでください。

灰を処理し終わったら灰受け皿を元の位置へ戻し、アッシュグレートハンドルを元の位置へ戻してから、アッシュドアをしっかりと閉めます。

* 直接炉内からシャベルなどを使用してフロントドアから取り出しても構いません。

アッシュグレートハンドル

両手で持ち、手前に引くとグレートが動いて灰が下へ落ちます。



メンテナンス

クレオソートの形成と除去について

薪がゆっくりと燃えている状態ではタールやその他の有機蒸気が発生し、蒸発した水分と組み合わせあってクレオソートを形成します。クレオソートはゆっくりと燃えているストーブの比較的温度の低い煙突に付着し、結果的に蓄積されてしまいます。クレオソートに引火すると極めて高い温度で燃焼し、煙突にダメージを与えるだけでなく、ときには建物の火災をも引き起こします。ストーブを使用するシーズン中は、2ヶ月に一度はストーブパイプと煙突内を点検し、クレオソートの形成が進んでいないかどうか確認することをお勧めします。クレオソートの厚みが6ミリ以上のときは、煙突火災予防のため煙突掃除を行ってください。

クレオソートの形成を防ぐには

- ① 毎日焚き始めに30分程度、プライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。
- ② 薪を補充した後も、20～30分はプライマリーエアーコントロールを全開にして燃やします。こうすることで二次燃焼システムが早い段階から有効に機能し、煙道内のクレオソートの形成を最小限に抑えることができます。

フロントガラスが汚れやすい場合、空気の絞りすぎによる低温燃焼または薪の乾燥が不十分であることが原因として考えられ、クレオソート形成の危険性も高いと考えられます。

表面温度が低い部分はクレオソートの形成が進みやすいため、煙突を点検するときは、最も温度が低いストーブとの接続部とトップに近い部分を点検してください。

クレオソートの除去には、使用煙突に合ったブラシを使い、煙突掃除を行ってください。また、シーズン前には、専門業者による点検、掃除をお勧めします。

ガスケット

ガスケットはストーブの気密性を保ち、燃焼効率を上げる役割をします。ガスケットの交換は2～3シーズンに1回が一般的な目安ですが、使用頻度にもよりますので劣化したら新しいものに交換してください。

ドアガスケット交換手順

古くなったガスケットを外し、ドライバーやワイヤーブラシ等で溝をきれいに掃除します。専用接着剤を溝に注入し、ガスケットを溝に押し込みます。ガスケットは引っ張らないようにしてください。すぐにドアを閉め、ガスケットを溝に定着させます。

ガラス

必要に応じ、薪ストーブ専用のガラスクリーナーを使ってガラスの汚れを取り除いてください。ただし、ストーブの使用時やガラスが熱いときにガラスを磨かないでください。数分置いたあとでやわらかい布か新聞紙でふき取ります。

ガラスに割れやひびが生じたときは、ストーブを使用しないでください。ガラスに衝撃を与えたり、ドアを勢いよく閉めたりしないでください。

注意：表面に引っかき傷ができるとガラスの強度が落ち、割れる危険性があります。カッターなどの鋭利な刃物、スチールウールや研磨剤を使ってガラスの汚れを落とさないでください。

フロントガラスはセラミック製で熱衝撃に強く、薪ストーブ専用です。割れたときには販売店に連絡し、新しいガラスに交換してください。薪ストーブ用に作られたものではないガラスは決して使用しないでください。

鑄鉄のお手入れ方法

乾いた布でほこりを落とし、補修には耐熱スプレーをお使いください。湿らせた布で汚れをふき取る場合には、ふき取ったあとでよく乾かしてください。錆びがある場合はワイヤーブラシで落とします。

エナメル仕上げのストーブにはやわらかい布をご使用ください。落ちにくい汚れにはガラスクリーナーの使用も可能です。エナメル部分を傷つけますので、研磨剤は使用しないでください。ご使用とともに、表面から奥に細かい線が網目状にできる場合がありますが、これは欠陥ではありません。

トラブルシューティング

薪ストーブユーザーが遅かれ早かれ直面する問題は一般的に共通したものです。それらのほとんどはちょっとした操作方法の調整などで修正が可能です。天候状態がストーブのパフォーマンスに大きく影響する場合には、問題は概して一時的なものである場合が多く、天候が戻れば自然と問題はなくなります。

ご使用中のストーブから適切な熱供給がされているかどうかを知るために、ストーブパイプの表面温度を計測する方法があります。ストーブパイプが 200℃であれば、ストーブが十分な熱を供給できている証拠です。ただし、部屋の温度を決定するのはストーブからの熱量だけでなく、家自体の断熱性、気密性、窓ガラスの数や大きさ、建築様式（吹き抜け天井など、熱が分散しやすいスペースの有無を含む）など、全てが影響するということも頭に入れておいてください。

*ストーブパイプの表面温度の計測には専用の温度計がありますので、温度計の取扱説明書も参照してください。通常、ストーブ天板から約 30 センチ上の位置に取り付けて計測します。シングルウォール・ストーブパイプ以外のストーブパイプでは、この方法での計測はできません。

ストーブの性能は設置方法によって影響を受けることもあります。よくある原因の一つは、口径、長さが不適切な煙突でのご使用です。太すぎる煙突や長さの足りない煙突はドラフトが起こりにくく、煙の引きを妨げます。とりわけ熱効率のよいストーブの場合には、効率のよい燃焼が困難でもあり、煙道内の温度が低いということは、クレオソートの付着を促進させることにつながります。また、十分なドラフトが起こらないと火が消えてしまったり、煙が部屋のほうへ逆流する原因にもなります。

ドラフトに影響を与えるその他の要因

高気密住宅：高気密住宅の場合には室内の空気が不足し、換気扇や衣類乾燥機などの使用により、さらに状況を悪化させます。外気導入アダプターを取り付けることで問題は解決します。

背の高い木や建物：煙突のトップ近くに高い木や建物がある場合には、煙の逆流が起こることがあります。これは慢性的に起こる場合も一時的な場合もあります。煙突を設置する際には、設置場所近辺にある建物などの位置を考慮する必要があります。

風：一般に、安定した強い風であれば、強いドラフトが起こりやすいと言われます。しかし突発的な風は煙の逆流を招く原因となります。

気圧：一般に、穏やかな日、雨の日、蒸し暑い日などはドラフトが起こりにくいとされていますが、天候が変われば解決するでしょう。

活発な燃焼：ストーブの火が強く、煙突の温度が上昇すると、強いドラフトが起こります。

煙突の部材接続部：点検口や部材接続部などがしっかりと密閉できていない場合、十分なドラフトが起こらない原因となります。

季節：秋口や春の終わりは適度なドラフトが起こりにくい季節です。室温と比べて外気温が低いほうが、ドラフトが発生しやすいと言われます。

ドラフトが簡単に起こらない日もありますが、ほとんどは季節的な要因と煙突が暖まりにくいことがその原因です。そのようなときは、細い焚きつけを使って火をおこし、より速く火力が上がるようにします。煙突が温まって速くドラフトが発生するよう、こまめに細い薪を補充して火の面倒をみましょう。

トラブルシューティングガイド

問題	考えられる原因	解決方法
煙	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを1分間全開にしてください。
	煙突が温まっていない	最初の着火時に細い薪を燃やし、しっかりと煙突を温めてください。
	煙突の詰まり	クレオソートの付着が進んでいないかどうか点検し、必要であれば煙突掃除を行ってください。
	煙突のサイズ	太すぎる場合：適切な口径の煙突に交換してください。 細すぎる場合：排気ファンを設置するか、適切な口径の煙突に交換してください。
	煙突が短い	煙突を付け足してください。
	煙突接続部の空気漏れ	点検口や部材間の接続部などをしっかりと密閉してください。
	2台以上のストーブによる煙突の共用	2台目以降のストーブは撤去してください。
煙の逆流	操作方法	ドアを開ける前にプライマリーエアーコントロールを1分間全開にし、薪の補充後も数分間全開の状態です燃やしてください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	煙突からの逆流	煙突トップを設置してください。
	灰が多すぎる	灰の除去を頻繁に行ってください。
燃えが速い	ドアからの空気漏れ	ドアをしっかりと閉めるか、ガスケットを交換してください。
	ドラフトが強すぎる	プライマリーエアーコントロールを閉め、低温燃焼を心がけてください。煙突の点検をし、ドラフトが0.1 W.C. を超える場合はダンパーを取り付けます。
	煙突が長すぎる	煙突を短くするか、ダンパーを取り付けてください。
	煙突が太い	適した口径の煙突に交換してください。
	風の強い立地条件：	煙突トップを設置してください。
温かくない	薪が乾燥していない	最低でも1年間乾燥させた薪をお使いください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	屋外でのシングル煙突の使用	断熱二重煙突に交換してください。
	煙突やストーブパイプの空気漏れ・劣化	煙突のチェックをしてください。
	建物からの熱損失	窓のコーキングなどの補修を行ってください。
エナメルのはび	操作方法	焚きすぎが原因です。ストーブの表面温度を頻繁にチェックし、乾燥した薪のみご使用ください。
	ドラフトが強すぎる	ドラフトをチェックし、必要に応じてダンパーを取り付けてください。プライマリーエアーコントロールを閉め、低温燃焼を心がけてください。

パーツリスト

PART #	DESCRIPTION	PART #	DESCRIPTION
	CASTINGS	5491-045	DOOR CATCH
2010-282	FLUE PLATE		
2010-285	FLUE COLLAR *		MISCELLANEOUS
2310-600	PRIMARY AIR PLENUM	1-0000-101	REFRACTORY STONE (4-1/2"x9")
2310-605	UPPER ASH GRATE	1-0000-300	REFRACTORY STONE (7-1/2"x10-3/8")
2310-610	TOP PANEL	1-0000-304	REFRACTORY STONE (4-7/8"x12")
2310-615	FRONT DOOR *	1-0000-308	REFRACTORY STONE (2-3/4"x9")
2310-617	FRONT/SIDE DOOR HANDLE	3120-360	CERAMIC BAFFLE
2310-620	SIDE DOOR *	3120-362	CERAMIC, SIDE DOOR BOARD
2310-625	ASH PAN FRAME	3120-363	CERAMIC BLANKET (2"x12"x1/4")
2310-630	INNER REAR PANEL		
2310-635	BOTTOM		OPTIONAL ACCESSORIES
2310-640	SIDE PANEL* (WITH NO DOOR OPENING)	93-57600	BLOWER KIT
2310-650	GRILL *	93-53500	OUTSIDE AIR KIT
2310-655	ASH PAN DOOR HANDLE *	93-68600	CLOSE CLEARANCE HEAT SHIELD KIT
2310-660	ASH LIP *	93-69600	SPARK SCREEN KIT
2310-665	LOWER ASH GRATE	93-58300	GLASS KIT
2310-670	SECONDARY AIR PLENUM, BOTTOM	93-58600	GASKET KIT
2310-675	FRONT PLATE	93-71600	FRONT & SIDE DOOR HANDLE KIT
2310-685	TOP *	94-73910	SIDE DOOR LATCH KIT
2310-690	REAR PANEL *	93-73600	FRONT DOOR LATCH KIT
2310-695	SECONDARY AIR PLENUM, TOP	93-70607	SIDE DOOR LOCKING KIT

*SPECIFY COLOR IF FINISH IS ENAMELED

	STEEL SET
5021-060	GLASS CLIP
5021-066	BAFFLE BRACKET
5360-010	ASH PAN
5360-012	ASH DOOR
5360-014	ASH DOOR HINGE
5360-024	PRIMARY AIR SLIDER
5360-028	AIR CONTROL LEVER
5360-030	SECONDARY AIR RISER PIPE
5360-050	FRONT DOOR HINGE W/ PIN
5360-052	REFRACTORY RETAINER
5360-058	SIDE DOOR HINGE
5360-060	SIDE DOOR HINGE CLIP
5360-062	FRONT DOOR HINGE (NO PIN)
5360-071	SECONDARY AIR PIPE #1
5360-072	SECONDARY AIR PIPE #2
5360-073	SECONDARY AIR PIPE #3
5360-085	TOP HEAT SHIELD

CONTACT YOUR LOCAL BUILDING OFFICIALS ABOUT

RESTRICTIONS AND INSTALLATION INSPECTION IN YOUR AREA



Intertek

Intertek Testing
Services NA, Inc.

Listed Room Heater, Solid Fuel Type
Also Suitable for Mobile Home Installation Pursuant to (UM)84-HUD

Manufactured by: **hearthstone**
317 Stafford Ave.
Morrisville VT 05661

SERIAL #

MODEL NAME:

MANCHESTER 8360

Conforms to UL Std. 1482

Certified to ULC Std. S627

WARNINGS

Do not use grate or elevate fire. Build wood fire directly on hearth.

Do not overfire. If the heater or chimney connector glows, you are overfiring. (See Manual)

OPERATE ONLY WITH
DOORS CLOSED.

DO NOT OBSTRUCT
SPACE UNDER HEATER.

TYPE OF FUEL: CORD
WOOD ONLY

"PREVENT HOUSE FIRES"

Install and use only in accordance with manufacturer's installation instructions and your local building codes.

CAUTION: Special methods are required when passing chimney through a wall or ceiling, refer to local building codes. Do not connect this unit to a chimney flue serving another appliance

NOTE: Replace glass only with 5mm CERAMIC IR or NEOCERAM IR glass.

WARNING: (MOBILE HOME) An outside air inlet must be provided for combustion and be unrestricted while unit is in use.

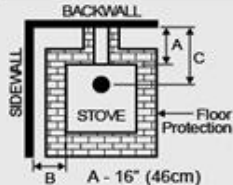
Inspect and Clean Chimney Frequently-Under Certain Conditions of Use, Creosote Buildup May Occur Rapidly.



CAUTION: HOT WHILE IN OPERATION, DO NOT TOUCH. KEEP CHILDREN, CLOTHING, AND FURNITURE AWAY.

CONTACT MAY CAUSE SKIN BURNS. SEE NAMEPLATE AND INSTRUCTIONS

Minimum Clearance to Combustible Materials*



A - 16" (46cm)
B - 18" (41cm)
C - 21" (54cm)

When installed on a combustible floor, non-combustible floor protection is required to cover the area beneath the heater, and extend at least 16" to the front and 8" beyond each side of the fuel loading and ash removal openings, the floor protection must extend under the flue connector and extend 2" beyond each side of the pipe.

VENT REQUIREMENTS: 6 inch diameter, single wall, minimum 24 MSG blue steel connector with listed factory-built Type HT chimney or masonry chimney.

* Refer to the Installation Manual for additional Clearance information, Installation Instructions, and Operating Instructions.

OPTIONAL COMPONENTS:

Close Clearance Heatshield	Part #93-68600
Blower	Part #93-57600
Outside Air Assembly	Part #93-53500
Spark Screen	Part #93-69600
Side Door Locking	Part #93-70607

U.S. ENVIRONMENTAL PROTECTION AGENCY
Certified to comply with July 1, 1990 particulate emissions standards

Date of Manufacture

2012 2013 2014 Jan Feb Mar Apr May Jun Jul Aug Sep Oct Nov Dec

DO NOT REMOVE OR COVER THIS LABEL

MADE IN USA

3300-211